

第44回 花と一万人の会「ちょっと素敵なまちづくり」

地域づくり活動の苦労話や成功談などを地域のリーダーに直接お伺いし、お届けする「地域づくりキーパーソンに聞く」コーナー。

花と一万人の会は、鬼怒川の美しい自然環境を地域づくりに活かそうと平成3年9月に設立されました。鬼怒フラワーライン（鬼怒川河川敷 1.5haの花畑）に美しい花を咲かせることにより、魅力的で潤いのある町づくりを目指した、住民主体の地域づくりを展開しています。

今回は、鬼怒フラワーラインにおいて、活動をされている「花と一万人の会」の会長飯島さんにお話を伺いました。

【平成21年度「手づくり郷土賞」（大賞部門）受賞】

【平成14年度「手づくり郷土賞（地域活動部門）受賞】

【平成14年度「第14回みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰受賞】など。



【花と一万人の会の方々(手づくり郷土賞の認定証をお持ちの方が、飯島会長です)】

【位置図】



【～満開の花の陰には、泥にまみれる苦闘の日々～】

かつて鬼怒川河川敷は不法投棄のゴミや背丈まで生い茂る葎等で荒廃し、格好のゴミ捨て場となっており、水辺まで近寄れない状態でした。そのような中、“自分達のふるさと鬼怒川に美しい自然を取り戻そう、昔のようにきれいな川にしよう”と気心の知れた仲間達約 10 人が集まり『花と一万人の会』が設立されました（現会員数は36人）。

設立当初は、不法投棄物の撤去や河川敷の基盤整備が作業の大半であり、機械も資金もない中で、土地の造成は建設業を営む推進委員が建設機械を持ち込み、耕起作業は推進委員がトラクターなどの自前の機械で作業をしました。河川敷ということもあり、大人の手で一抱えもある大きな石がゴロゴロしており、大変な作業の連続でした。

大変な苦闘の末にやっとの思いで開催した、「第1回花とふれあいまつり」でしたが、満足のいく開花は得られず、天候も雨にたたられ、参加者は 100 人程度とさびしいものでした。この悔しさを忘れることなく、失敗や試行錯誤を繰り返すことで、身に付いた経験を活かして花畑を拡張していきました。拡張の際には、石さらいを業者に依頼しましたが、「トラクターが壊れるから」と断られ、自分達の手でやる風景は、さながら土木工事でしたが、今や、荒れた河川敷は 1.5ha に 150 万本のポピーが咲く花の名所に生まれ変わりました。ポピーが見頃を迎える頃（5月）には、市内をはじめ茨城県内外からも多くの来訪者があり、地域のふれあい交流拠点・観光名所として定着しています。また、今では散歩途中にゴミを捨てる方がいるなど、河川愛護、自然再生活動への普及や啓発につながっています。



【鬼怒川河川敷に咲き誇るポピー（黄色・赤色）】

【～毎週活動しています～】

花と一万人の会は、年間を通して鬼怒川河川敷の河川愛護活動や自然再生活動のほか、年4回の定期的なイベントとしては、花とふれあいまつり（5月）、さつまいも定植会（6月）、ポピーの種まき&さつまいも掘り大会（10月）、草刈り交流会（3月）を開催しています。これらの活動は推進委員だけで行うのではなく、学校・自治会・商工会・住民・地域づくり団体等、多くの団体の協力を得ながら「ちょっと素敵なまちづくり」を合言葉に、全てボランティア活動によって実施しており、地域コミュニティの育成にも大きく貢献しています。

年間通しての活動の全ては、設立当初から現在まで、推進委員や参加者等の意見を多数取り入れて工夫を凝らしたオリジナルの活動です。

恒例行事のイベントになっている「花とふれあいまつり」は参加者全員に「花の株券（1,000円）」を購入していただいています。花の株券は、絵はがき・花の種・株券（抽選券1枚、バーベキュー・そば引換券2枚）がセットになっており、この売り上げにより、花とふれあいまつりや鬼怒フラワーライン整備等、会の活動を運営しています。花とふれあいまつりでは、株券による集客効果も大きく茨城県内外から訪れる参加者に対し本地域の魅力をアピールできる絶好の機会となっています。

平成13年10月には、鬼怒川に隣接する市立大形小学校児童を「花と一万人の会ジュニアスタッフ」として任命し、年間を通して活動に参加することで川の素晴らしさや地域の環境に対する理解を深め、郷土愛を育成する場となっています。

平成16年には国土交通省下館河川事務所・千代川村（現下妻市）と、花と一万人の会が鬼怒川フラワーラインの里親となり通年管理を行う「アダプトプログラム鬼怒川」（※）の協定を締結しました。鬼怒川でのアダプト協定は初めてということもあり、鬼怒川の環境美化・河川環境の保全においてもさらに力を入れて活動しています。

平成19年からは、鬼怒川フラワーラインで育った「紫いも」を地元の和菓子製造業者の協力の下、餡に加工して作った特性の「ポピー大福」を製造し、新たな角度から鬼怒川の魅力をPRしています。

イベントが無くても、会長をはじめ推進員の皆さんは、ほぼ毎週河川敷において、草刈等を実施し、美しい河川敷を維持する活動をされています。

（※）アダプトプログラム鬼怒川

アダプトとは「～を養子にする」という意味合いがあります。地域のみなさんが鬼怒川を里子にみだて、清掃・除草・花壇整備などを行い、行政がこれを支援するプロジェクトです。



【除草作業、インタビュー当日です】



【除草の翌週、「鬼怒川でクリスマスを開催しました】

【～今後の展開について～】

今後も引き続き地域に賑わいを創出するためのイベント等の開催、会運営に携わる若い世代の参加及び後継の育成、そして整備されている河川敷の美しさを後世に引き継ぐ活動を続けていきます。